



マルチメッセンジャー天文学

富永 望

甲南大学自然科学研究科教授、Kavli IPMU 客員上級科学研究員

天文学は古くから可視光を天体からのメッセンジャーとして使う可視光観測によって発展してきました。20世紀に入り、新しい観測装置が開発され可視光以外の電磁波による観測が可能となりました。その度に天体の全く新しい側面を見ることができるようになり、人類の知見が広がってきました。近年は宇宙線、ニュートリノ、重力波といった電磁波以外のメッセンジャーを用いた天文学も発展してきています。これらの連携によって天体の情報を引き出す天文学をマルチメッセンジャー天文学と呼びます。

